

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅷ 福祉分野の実務における基本的課題 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点	研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-8-1	生活と心理臨床	I	当事者の生活(暮らし)全般に目を向け、生活の様々な場面からの情報把握とそれらを踏まえた当事者理解、および生活場面も視野に入れた心理臨床の展開について理解する。	滝川 一廣(あなはクリニック、医師)	◎	62分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-8-2	福祉領域における権利擁護と法制度	I	【児童福祉】 子どもの権利条約、こども基本法とこども大綱、児童福祉法、児童虐待防止法、DV防止法、子ども・子育て支援法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、養子縁組あっせん法、その他 【障害福祉】 障害者権利条約、障害者総合支援法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法 【高齢者福祉】 老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法、認知症基本法	高橋 温(新横浜法律事務所、弁護士) 丹野 傑史(長野大学、教授) 加藤 伸司(東北福祉大学、教授)	○	31分 31分 42分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-8-3	多職種協働による支援と心理職の役割	I	【児童福祉】 児童福祉を担う機関と職種についての理解。多職種からみた心理職像と求められる役割について理解し、有効な多職種連携を検討する。 【障害福祉】 障害福祉を担う機関と職種についての理解。多職種からみた心理職像と求められる役割について理解し、有効な多職種連携を検討する。 【高齢者福祉】 高齢者福祉を担う機関における多職種の理解を深める。認知症初期集中支援チームや養護者支援における高齢者福祉の現状を理解し、今後心理職に求められる役割について考え、有効な多職種連携を検討する。	薬師寺 真(倉敷児童相談所、所長) 下山 真衣(信州大学、准教授) 加藤 伸司(東北福祉大学、教授)	○	43分 30分 35分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-8-4	子育て支援と心理職の役割	I	子育てに関する心理教育、家族からの子育て相談、乳幼児健康診断、保育所等における子どもの相談等、一般の子育て支援の実際と、そこでの心理師の役割について実践事例を踏まえて理解する。	八木 安理子(同志社大学、客員教授)	◎	33分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-8-5	障害のある当事者、家族、支援者への支援と心理職の役割	I	障害のある児・者に対する支援、家族への支援、子どもと家族を支援する方々への支援等の実際と、そこにおける心理師の役割について実践事例を踏まえて理解する。	田熊 立(千葉県発達障害者支援センターCAS、副所長)	◎	40分
		II				
		III				
		IV				
		V				

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅷつづき 福祉分野の実務における基本的課題 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師 1 名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-8-6	児童虐待対応の流れと心理職の役割	I	○	通告の受理、初期調査、リスクアセスメントと子どもの保護、包括的アセスメントと子どもと家族への支援、子どもと家族との関係性への支援といった展開における公認心理師の役割について、実践事例から学ぶ。	薬師寺 真(倉敷児童相談所、所長)	◎	45分
		II					
		III	○				
		IV					
		V					
C-8-7	社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割1: 小学校年齢児	I	○	児童福祉施設に入所した子どもは、それまでの不適切な養育環境等によって、重い心の課題を抱えている。生活での様々な場面を通した子どもの状態像の把握やそれまでの生育状況を踏まえた子ども理解等の包括的アセスメントによる支援の展開と心理師の役割について実践事例を通して理解を深める。	藤原 誠(子どもの虹情報研修センター、研修課長)	◎	66分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-8-8	社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割2: 思春期・青年期	I	○	虐待等による影響によるアタッチメントの問題やトラウマ等の問題から回復しても、自らの過酷な人生史を振り返り、深い悲しみと喪失感から自らを支えることさえ困難な状況に陥る場合が少なくない。特に思春期・青年期のアイデンティティ形成の時においては大きなテーマとなる。この段階を支える課程と心理職の役割について、実践例を踏まえて理解を深める。	増沢 高(子どもの虹情報研修センター、研究部長)	◎	57分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-8-9	高齢者支援における高齢者と家族に対する心理的支援の実践	I	○	高齢者の意思決定支援やアドバンスケアプランニング(人生会議)における心理師の役割について理解する。介護問題では、認知症の診断後の当事者と家族に対する初期支援や、虐待の未然防止にむけた家族に対する心理的支援など、多職種協働の中で、心理師が担うべき役割について実践例を踏まえて理解を深める。	加藤 伸司(東北福祉大学、教授)	◎	65分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-8-10	強度行動障害の理解と支援の実践	I	○	強度行動障害の子どもの理解と支援の実践について理解を深める。そこにおける心理師の役割について実践例を基に検討を深める。	高橋 潔(鉄道弘済会、理事)	◎	47分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V	○				